CHIBA UNIVERSITY

ニュースリリース

平成30年12月21日
国立大学法人 千葉大学

脱いじめ傍観者教育プログラムの効果検証結果中間報告

～いじめ否定規範意識が向上＆雰囲気の良いクラスでは好結果。雰囲気の良くないクラスでは課題あり～

国立大学法人千葉大学教育学部藤川研究室は、いじめ等の防止に寄与することを目指し平成29年5月に敬愛大学国際学部阿部研究室、柏市教育委員会、NPO法人企業教育研究会、ストップイットジャパン（株）等と「考え、議論する道徳」としても活用できる脱いじめ傍観者教育プログラム*[1] の開発を行いました。そして今年度、脱いじめ傍観者教育の成果と課題を明らかにするため、静岡大学の青山郁子氏（国際連携推進機構特任准教授）、兵庫教育大学の五十嵐哲也氏（学校教育研究科准教授）とともに、脱いじめ傍観者教育プログラムを受けた柏市、野田市および埼玉県草加市の全公立中学校に在籍する中学1年生に質問紙調査（全3回）を実施しています。本リリースでは、中間報告として1回目（授業実施前）と2回目（授業実施1ヶ月後）の調査結果を報告します。

なお今回調査を行なった3市は、脱いじめ傍観者教育の実施とともに匿名報告相談アプリ「STOPit」を導入しておりますので、STOPitの報告・相談状況も併せて報告します。

＊1　脱いじめ傍観者教育プログラム
クラスにいじめを止める雰囲気がある場合にはいじめを止める行動をとる人が多く、クラスにいじめを止める雰囲気がない場合にはいじめを止める行動をとらない人が多いという、千葉大学、名古屋大学および静岡大学の共同研究成果を基に開発された授業プログラム。
授業内容等については、以下のURL参照。
ー「私たちの選択肢」利用の手引き（平成29年7月発行） http://www.stopit.jp/assets/jpworkshop/Workshop_Brochure.pdf

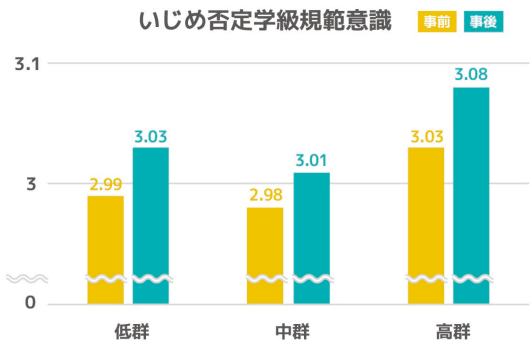
1. 調査概要

①調査対象：
柏市（21校）、野田市（11校）および埼玉県草加市（11校）の全公立中学校に在籍する中学1年生（6,462名）
②調査時期・方法：
2018年5月～7月に対象校で「脱いじめ傍観者プログラム」を実施する前・実施1ヶ月後に質問紙調査を実施
③調査内容：
・授業実施の前後における「学級のいじめ否定の規範意識*[2]」「生徒たちの傍観者としての行動選択*[3]」の変化
・行動の変化と、もともとの学級風土（低群、中群、高群）*[4]との関係

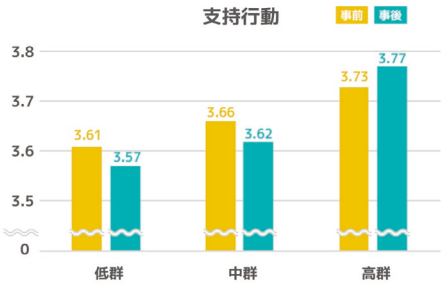
＊2　いじめに対する学級の規範意識7項目からなるいじめ否定学級規範意識尺度（大西・黒川・吉田、2009）を使用。具体的ないじめ行動等についての評価（とてもいい～とてもまずい）を7段階評定で尋ねたものであり（例：気に入らない人の悪口をわざと本人に聞こえるように言うこと）、点数が高いほど、いじめ否定の学級規範意識が高いことを示す。
＊3　傍観者の行動
いじめの停止行動に対する自己効力感尺度(全14項目)（中村・越川、2014)を使用。質問項目は、いじめを目撃した際の傍観者としての行動選択として、支持行動、仲裁行動、同調行動などの下位尺度で構成される。
＊4　学級風土
新版学級風土尺度(伊藤・宇佐美、2017)を使用。質問項目は全51問で、8つの下位尺度からなる（学級活動への関与、生徒間の親しさ、学級内の不和、学級の満足度、自然な自己開示、学習への志向性、規律正しさ、リーダー）。学級風土の平均値から±1標準偏差の値で区切り、3群（学級風土低群、中群、高群）に分類し、記述統計での分析を実施。

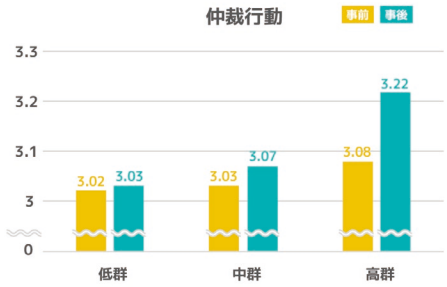
2. 成果と課題

①いじめ否定規範意識においては、全ての学級風土群において増加が見られました。また高群において、増加幅が大きくなりました。

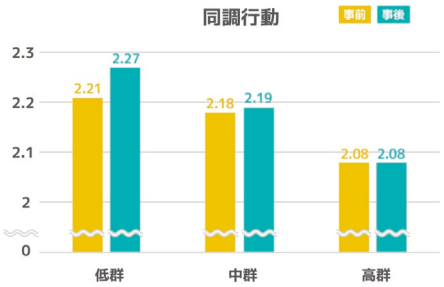


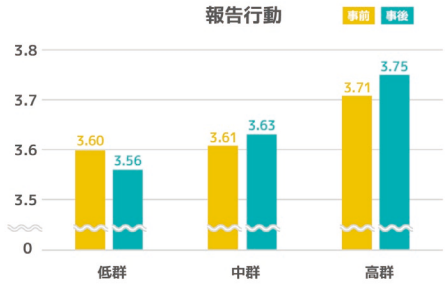
②傍観者の行動の変化において、被害者への支持行動（「いじめられている人をなぐさめる」など）に関しては、学級風土の値が高いクラス＝高群でのみ増加しました。また、仲裁行動（「いじめをやめるように皆に言う」など）に関しては、学級風土の値が低いクラス＝低群ではほとんど変化がなく、高群でのみ増加幅が大きくなっていました。





③同調行動（「周りに同調する・調子を合わせる」など）に関しては、高群ではほとんど変化がないが、低群では増加が見られました。さらに報告行動では、中群ではほとんど変化は見られず、高群でもわずかに上昇している程度でした。しかし、低群では減少が見られました。





3. 考察

傍観者の行動選択においては、授業の前後で良好な結果が得られたのはもともとの学級風土がよいクラスのみであり、学級風土がよくないクラスでは先生への報告行動の減少や、同調行動の増加など逆の効果が見られました。1回50分のプログラム実施だけで全ての生徒の行動や規範意識の変化をもたらすことは実質的に困難であるため、今後も継続的ないじめ予防教育の開発および機会提供が必要です。さらに、ポジティブな行動介入と支援（Positive Behavioral Intervention and Support:PBIS）などの取り組みを通じ、よりよい学級風土を形成する努力もまた必要です。本結果を踏まえ、今後も新たな授業開発等に取り組んでいきます。

4. 匿名報告・相談アプリSTOPitの成果

・中学生からの電話・メール・ STOPit相談件数（平成30年4~9月）

市名	対象生徒数（人）	電話（件）	メール（件）	STOPit（件）
千葉県柏市	9,879	23	1	131
千葉県野田市	3,955	0	−*	14
埼玉県草加市	2,000	4	1	44

*千葉県野田市はメール相談窓口を設置していない。

5. プレスキット（以下の素材は自由にご使用いただけます）

・「私たちの選択肢」授業風景
（＊ご希望の方は下記問い合わせ先までご連絡ください）

・匿名報告相談アプリSTOPitの画像
http://www.stopit.jp/press-kit

本件に関するお問い合わせ・取材のお申し込み
千葉大学教育学部附属教員養成開発センター　特別研究員　谷山大三郎
Tel：050-3754-2219　Mail：info@stopit.co.jp